

施策名：2-3-1 豊かな自然環境の保全と活用

担当部：産業政策部、建設交通部

検証項目	検証結果					
	検証委員挙手数			市民評価者		
	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
I 施策の実現に向けた取組について						
課題がしっかりと捉えられているか	1	2	1	0	4	3
取組の方向性は合っているか	1	2	1	0	2	5
取組成果が、施策実現や成果指標の達成に効果があるか	1	1	2	0	3	4
II 施策の有効性について	有効である		有効ではない	有効である		有効ではない
政策目標の達成に向けた施策の有効性	1		3	0		7

1 検証委員からの主な指摘事項

○イベントを通じて自然(森、山、川)を深く知って行動してほしいと思っているが具体策は次期計画である。

○現在はリーダーを発掘する段階。どんなリーダーをどれだけ発掘するか、それを市民の70% (目標)に結びつける方法についても具体策は次期計画である。

○課題解決のため取組が明確ではない。例えば若い方を対象とした取組をしたら、政策実現にどう結びつくのかまで考えていく必要があるのではないか

○自然に親しむことから保全につながる。(イベント、研修会)

○次期計画次第かなと思います。かなりやること、詰めること詰めきること、修正すべきことも多いと思います。

<担当部 対応方針>

- ・(仮称)福知山市エネルギー・環境基本計画を策定中で、この中で課題整理を行ない、「あるべき姿」である目的と、それを達成するための手段を明確にし、具体的手法や支援策等について示したいと考えている。
- ・具体的には、未定稿ではあるが、基本政策1「市民一人ひとりが持続可能なまちづくりの担い手となり、ともに育み、ともに育つまち」の施策の中で人材育成策として、様々な分野のリーダーに環境保全に関わっていただく手法や、学校教育における再エネなど環境教育と、地域におけるワークショップなどを通じて様々な年代の人材を育成するための手法を検討しているところである。
- ・また基本政策「自然、環境や地域資源を守り、生かし、次世代につないでいくまち」の政策目標「自然と共生する地域空間の形成」において、現在も自然に親しむイベントとして環境会議等による由良川関連の取組や、「福知山千年の森づくり基本計画」に基づくイベントを実施しているところであるが、こういった取り組みを通じ、自然を感じ、理解する場を醸成し、自然、環境や地域資源を守り、生かし、次世代へつないでいくまちの実現へ向けた取り組みを推進したい。

## 2 施策改善案など（検証委員、市民評価者が記載したコメントのとりまとめ）

### （1）検証委員

- ・あるべき姿目指す姿を明確にしてから課題を整理し取り組みを考えた方が良いのではないか
- ・目的、手段が混沌になっているので組織としてももう少し深く整理された方が良い。最後は制度や仕組みで答える必要がある。
- ・次期計画では子ども～大人～企業～林業者等 1240 人のリーダーが→4 万人に広がる方策も具体化してほしい。
- ・森林経営管理 収支が伴う施策を行わないと保全はできない。
- ・プロセス指標だけでなく保全指標などもトライアルしてほしい。

#### <担当部 対応方針>

- ・(仮称)福知山市エネルギー・環境基本計画の策定にあたり、この中で課題整理を行ない、「あるべき姿」である目的と、それを達成するための手段を明確にし、具体的手法や支援策等について示したいと考えている。その手段を実行することで、あるべき姿に近づき、最終的には市民の7割が何らかの形で環境に関わることを達成したい。
- ・森林経営は、木材価格の低迷等の原因により、手入れがされず森林への関心も低い状況であるため、本施策により森林への関心を高めるとともに、費用負担について考慮したうえで、森林整備につながる事業展開を実施していく。

### （2）市民評価者

- ・林業従事者の生活と仕事を直接支えて欲しい。
- ・一部(子ども向け)の市民のために動いているだけのような気がする。市民全体に向けて具体的な行動をとられているのかがはっきりと伝わってこない。
- ・山間部に住む市民には少し理解ができるが、市の中心部の人には伝わりにくい。
- ・「市民が」とあるが次世代である学生に目を向けられているか。小学生中学生が理解できるレベル、具体的な行動の提示が不足していると感じます。市民全員が大学レベルの話を理解可能なわけでは無い。特に自然分野は学生のうちに興味を持って触れ合うことが重要と考えます。

#### <担当部 対応方針>

- ・行政・市民・事業所が一丸となって環境保全に取り組むためには、世代や地域に偏ることなく支援策や啓発に取り組むことが必要であり、わかりやすく、実感できるイベントやワークショップなどを通じて、様々な年代の市民等に関わっていただき、さらに人材を育成していきたいと考えている。
- ・例えば、環境会議としては、由良川・里山プロジェクトとして、明智藪の竹林整備を、大江町毛原では、企業と合同で森林整備（モデルフォレスト活動事業）を展開したり、福知山千年の森づくり事業においては、大江山トレイルラン教室を、市民に参加を呼び掛けて行なっている。これらの事業については、実施と検証を行い、より多くの若年層をはじめとした市民の参加が得られるよう工夫していきたい。
- ・森林整備を担う林業従事者の役割は重要であるため、林業事業者の雇用者、自伐型林業者といった様々な面から林業従事者の増加を目指す事業の展開を図っていききたいと考えている。